

総括質疑

3月定例会では、予算審査常任委員会において各会派の代表が、令和4年度予算について一問一答方式による質疑を行いました。

ここでは、その質疑の一部を掲載します。

(予算審査常任委員会小委員会での審査)



教育

白石 多津子

平成西山クラブ

問 中央教育審議会の答申では、不登校の子どもについて、学校のみで解決することに固執すべきではないとしている。学校と民間との連携についてどう考えるか。

答 学校とフリースクールが連携を密にすることが、今後ますます重要になると考える。本市でも、京都府の認定フリースクール制度における取り組みを取り入れながら、連携を進めていきたい。



上下水道

田村 直義

平成西山クラブ

問 今里雨水貯留施設には、停電時のポンプ動力として、蓄電池を利用した予備電源がある。これは3時間分の動力を確保できるが、3時間を超える場合は、どう対応されるのか。

答 3時間を超える稼働の場合は、必要な電圧を満たす発電機を用意してポンプ稼働を行う。また、こういった非常時の対応として、マニュアルの整理や関係機関との調整なども検討していきたい。



行財政

広垣 栄治

日本共産党

問 公共工事に従事する現場労働者の賃金基準となる設計労務単価は、実際の賃金との間に乖離がある。設計労務単価を引き上げ、収入面で待遇改善を図る国の施策が、労働者に届いていないと考えるがどうか。

答 設計労務単価に改定があれば、速やかに予定価格への反映に努めている。また、受託者に労働関係法令を遵守するよう徹底することで、労働環境を適正に保っていきたい。



福祉

二階堂 恵子

日本共産党

問 低所得者など住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居促進を図るため、住宅情報の提供などの支援を実施する住居確保支援協議会がある。全国で112の協議会が設立されているが、本市ではどうか。

答 本市は、京都府の協議会に参画しており、その枠組みの中でネットワークを生かし、連携して取り組むほうが、市単独で設立するよりメリットがあると考ええる。

総括質疑とは？

予算審査常任委員会には、分野ごとに審査する「分科会」と予算議案全体を一括して審査する「小委員会」があります。

小委員会では、各会派から選任された委員が、それぞれ一人あたり30分の持ち時間で、一問一答方式の質疑を行います。これを「総括質疑」と言います。

詳しい総括質疑（小委員会）の内容は、ホームページの「会議録検索システム」の中で随時掲載しています。





福祉

住田 初恵

日本共産党

問 国は保育所の整備や人材確保などのため、2兆円規模の保育関係予算を確保している。保育事業者が、必要ときにすぐ使えるように保育の充実のための補助制度を作るのが、市の役割だと考えるがどうか。

答 本市では、保育現場で使いやすいように、またニーズがあるところに補助制度を出していく前提であり、国が示す補助制度全てを市が制度化するということではないと考える。



行財政

中小路 貴司

平成自民クラブ

問 市政50周年特別記念事業の1つに文化財保存活用地域計画の策定がある。どのような思いで計画を策定しているのか。

答 歴史・文化を生かしたまちづくりを進めることは、まさに継承と発展の要であると考え。市民の豊かな暮らしを支える潤い資源である歴史・文化を次世代へ確実に継承していくことを考えながら、計画を策定していきたいと考える。



防災

八木 浩

平成自民クラブ

問 消防団員は、救命救急などの能力やふるさとを守ろうという意識が高い。本市の消防団OBを防災士として育成し、活用してはどうか。

答 本市では、防災訓練や出前講座を通じて地域の防災リーダー育成に努めている。防災士は、防災に関する知識や技能を有する地域の防災リーダーとなりうる人材であると考えており、消防団の協力を得られるよう協議を進めていきたい。



環境

福島 和人

公明党

問 高齢世帯の中には、資源ごみの拠点回収場所にごみの持ち込みが困難な世帯もある。新たな回収システムの構築が必要と考えるがどうか。

答 自治会などで協力を得た拠点回収場所を15から31に増設した。また、昨年から試験的に運用している中央公民館での古紙ステーションでの回収を、令和4年度から本格実施予定である。引き続き利便性向上に向けた様々な検討をしていきたい。



環境

宮小路 康文

輝(かがやき)

問 第三期環境基本計画の実行には、市民や事業者も取り組みの主体だという自覚が必要であると考え。エシカル消費など、日常生活の中の取り組みは、どのように普及啓発を進めるのか。

答 日々の買物が食品ロスや地球温暖化などの社会課題に関与していることへの気づきや、私たちの生活が環境、社会、地域に影響を与えていることへの啓発が重要だと考える。



行財政

進藤 裕之

輝(かがやき)

問 令和4年度一般会計予算編成では、新庁舎建設や長岡第四小学校の建て替えなどの投資的経費が増加する中、歳入確保と歳出抑制に対し、どのような思いで予算編成をされたのか。

答 やらなければならぬ課題が非常に多くある一方、財源は限られている状況である。4年度は、一定税収が確保される想定で、必要な事業をしっかりと行うという思いで、できるだけ積極的な予算編成を行った。

この言葉ってどういう意味？ 語句解説コーナー



フリースクール

一般に、不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などを行う民間の施設のことです。地域の学校と連携していることも多く、フリースクールへの登校が学校での出席扱いになるケースもあります。

防災士

NPO法人日本防災士機構が認定する民間資格の1つです。「自助」「互助」「協働」を原則とし、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのために十分な意識や知識、技能を取得した人のことです。

エシカル消費

人や社会、環境、地域などに配慮した消費行動や、社会的課題に取り組む事業者を応援しながら行う消費活動のことです。例として、エコバックの利用やごみの分別、地産地消などが挙げられます。